

★ ★ ★ ★ ★ アメリカ切手展 ★ ★ ★ ★ ★

america'22

American Philatelic Exhibition



アメリカ切手展 2022
america'22

7/1 (FRI) ↓ 3 (SUN) 10時半 ↓ 17時
※7月1日(金)は13時~17時

【会場】切手の博物館 3階スペース1・2
【主催】公益財団法人日本郵趣協会・アメリカ郵趣研究会
【後援】アメリカ大使館

郵趣カンファレンス
【日時】7月3日(日)13時~14時 【会場】切手の博物館 3階 会議室 B (入場無料)
【テーマ】アメリカ切手展2022 展示作品解説 【講師】小林伸佳氏(アメリカ郵趣研究会代表)

入場無料
お気軽にご参観下さい

2022年7月1日(金)~3日(日)

於：「切手の博物館」(東京・目白)

主催：公益財団法人日本郵趣協会・アメリカ郵趣研究会

The U. S. Study Group, JPS

後援：アメリカ大使館

◎ ご挨拶

私たちアメリカ郵趣研究会は、毎年アメリカ合衆国の独立記念日前後にアメリカ切手展を開催しています。2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により開催できませんでしたが、2021年から展示フレーム数を減らして再開しています。今年も日本郵趣協会をはじめ、多くの方々のご協力により開催できることとなり、大変うれしく思っております。また、昨年に引き続き後援いただいたアメリカ大使館にも心から感謝申し上げます。

2022年はアメリカが切手を発行してから175周年という記念すべき年にあたります。そこで、今年のアメリカ展では、1847年に発行された最初の切手から、21世紀の切手に至るまで、アメリカ切手の全体像を見ていただけるように展示しておりますとともに、カタログに載っていても普段目にする機会があまり無い新聞切手やクリスマスシールなども展示しています。

気に入った切手や興味を持たれた作品などがありましたら、簡単な説明をさせていただきますので、会場におります研究会会員にお気軽にお声がけ下さい。また、写真も自由に撮っていただいて結構です。

どうか、ごゆっくりご鑑賞ください。

アメリカ郵趣研究会入会のご案内

会費 一般会員年会費 2500円
 PDF会員年会費 1500円
PDF会員は初年度年会費無料!

会報 The U. S. Philately
 カラー24ページ 年6回発行

例会 毎月第3土曜日 11:30~13:00
 目白: 切手の博物館3階会議室

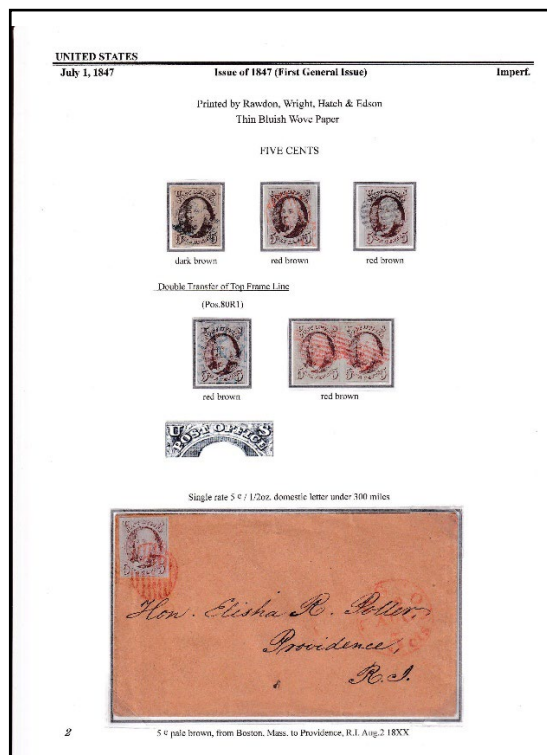
特別例会 スタンプショウ・JAPEX等
 切手展 毎年7月上旬に開催

入会申込・お問い合わせ先
 メール: info@jps-ussg.com
 郵送: 〒240-0031 横浜市保土ヶ谷区
 藤塚町12-1-N406 小林方

◎ 第2~第4フレーム

19世紀のアメリカ普通切手

姉川義治



1847年7月1日に、米国でベンジャミン・フランクリンを描いた5セント切手と、ジョージ・ワシントンを描いた10セント切手が発行されました。これがアメリカ郵政が発行した最初の正刷切手となります。

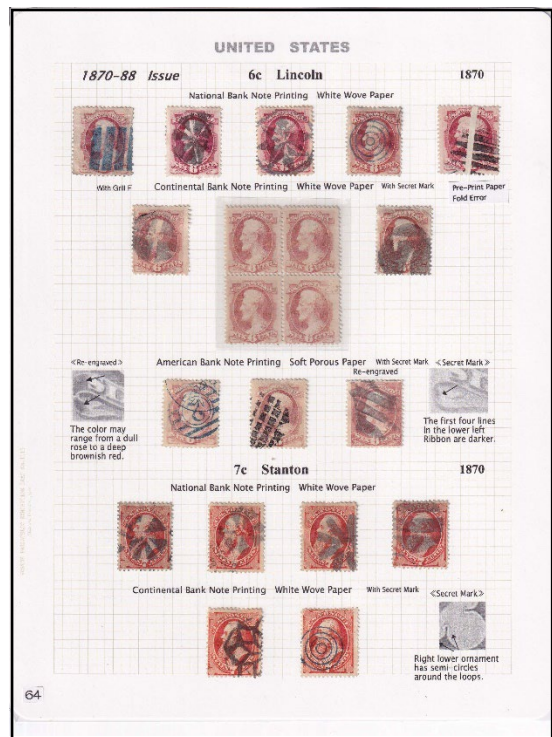
この当時の郵便事業は、切手を用いた料金前納が本格稼働しておらず、郵便利用者は料金受取人払いを選ぶ例がほとんどでした。そのため、最初に発行された2種の切手は発行枚数が少なく、入手が困難な切手となっています。

これに対して2番目のシリーズとなる1851年シリーズでは、300マイル(約483km)以下、2分の1オンス(約14g)までごとに5セント、300マイル超、2分の1オンスごとに10セントだった料金を、距離の制限を3000マイル(約4828km)に大きく伸ばすとともに、料金を前納すれば5セントを3セントに、10セントを6セントに割り引くことにしたため、切手の使用量が大きく増えました。

◎ 第5～第6フレーム

ラージ・バンクノート 1870-1888

榎原晃二



米国では、短命に終わったトピカル図案の1869年シリーズに続いて、1870年には大型で縦長の肖像図案に統一された新シリーズが発行されました。これが20年間にわたって発行が続いた「ラージ・バンクノート」シリーズです。

当初は、ナショナル・バンクノート社で印刷され、その後同じ原版を引き継ぎながら、コンチネンタル・バンクノート社、そしてアメリカン・バンクノート社へと印刷会社の変更されていきます。シリーズ初期には僅かだけグリル入りがあり、印刷会社については、シークレットマークや多孔紙の使用などで分類ができます。1880年代には、郵便料金の改正により、図案や刷色を改正しています。この時代は、米国が南北戦争から復興し、近代国家の基盤を固めていき、郵政も順調に発展した時代でもあります。

このコレクションでは、エッセイ、プルーフ等のアーカイブから、版、刷色、用紙、グリルなどの製造面の分類と、国内外あてのカバーによる使用面で構成しています。この変化に富んだシリーズについて、全体の流れが概観できるものとなりました。

第10フレーム

プロミネント・アメリカン・シリーズ

伊藤淳



プロミネント・アメリカン・シリーズは、統一感のあるリバティー・シリーズやアメリカーナ・シリーズに挟まれて、雑然とした印象を受ける普通切手のシリーズですが、何回かの料金改定に併せて米国切手独自の様々な試みがなされているため、製造面からも興味深い収集対象となっています。

世界一の郵便量を捌くため、郵便自動押印機の導入を目的にこのシリーズから本格的に採用された蛍光印刷の発行切手は、何種類かの額面でブラックライトを照射せずとも版番号で識別ができます。あまり質の良くなかった裏糊を改良するため実験的に切手帳へ耐湿糊が採用され、のちに米国切手のスタンダードになりました。

また、従来のシリーズとは比較にならないほどヨーロッパ諸国のように切手帳が何種類も盛んに発行されており、切手帳にしかない切手も発行されています。

ベトナム戦争の影響も感じられる使用面を絡めてこれら製造面の分類を進めてゆくと、このシリーズ独自の面白さが広がります。

◎ 第 14~16 フレーム
航空切手

入江司



1918年、アメリカ東部の3都市間で世界最初の定期航空郵便が開始されました。同時に航空郵便料金に対応した航空切手が発行されました。その後、航空郵便路線の拡大とともに料金改正が行われ、1928年にはアメリカ本土の航空郵便料金が統一されました。

今回の展示では1918年の最初の航空切手から1936年までに発行された国内航空料金の航空切手を3フレームにまとめました。

航空郵便は、外国宛の郵便物の国際交換局までの輸送時間の短縮にも利用されました。外国宛郵便物の国内航空料金も規定されており、その使用例は、アメリカ国外の航空料金と相まって、興味深い収集対象となります。この展示でも、外国宛郵便の国内航空扱いの使用例をできるだけ含めてみました。

上に掲載したリーフは、フィンランド宛のヨーロッパ地域内航空扱いの使用例ですが、ニューヨーク港から出発する船の出航直前に埠頭で引き受けられた Supplementary Mail で通常の倍の料金が支払われたものです。大西洋横断航空郵便がまだ開設されていなかった時期ならではの使用例です。

第 17 フレーム

アメリカの新聞切手

篠塚慶一郎



アメリカの新聞切手は、『新聞、雑誌の一括発送の際、郵便料金前納用として使われた』もので、いわゆる新聞帯紙に貼る一般郵便切手とは異なります。

日本でいえば、明治維新の前、慶応年間にあたる1865年に超大型3種で発行された新聞切手の最初のセットは、100年近くの間、世界最大の切手として、有名でした。

その後、日本の手彫切手の時代の最終にあたる1875年に、斬新な女神の図案（農神、勝利の女神、平和の女神、商業の女神、インディアンの乙女等）に改正されました。

印刷会社、用紙、デザインの変更を経て、最後の発行は1897年で、翌1898年には、新聞切手の制度は廃止されました。

この展示には、カバーの類が含まれていません。切手の分類に加え、消印や使用例の展示があるのが普通ですが、米国の切手商に照会しても、そのようなものは存在しないといへませんでした。

特に最初の大型切手には、カバーはおろか使用済みめったにみられません。新聞切手は素晴らしいデザインにもかかわらず、マテリアルが少ないため、収集人口は少なく、研究はあまり進んでいない分野かもしれません。

america'22 出品作品

◎ 第18 フレーム

日本にやってきた 1902 年シリーズ
太田隆啓



発行 120 年を迎えた普通切手 1902 年シリーズを使って日本に届いた郵便を紹介しました。

このシリーズの 1c、2c、5c 切手は、緑、赤、青の刷色になっています。これは、UPU で定めた外国郵便の印刷物用、はがき用、書状用の切手の刷色です。ここでは、この 3 種の切手を貼り、日本に届いた郵便を展示しました。

この 1902 年シリーズ発行から、次の普通切手 1908 年シリーズが発行されるまでの約 6 年の使用例です。

この 6 年間の日本宛ての郵便料金は、
はがき料金 2c
封書料金 5c
印刷物 1c/2oz
でした。

◎ 第19~20 フレーム

日本にやってきた 1922 年シリーズ
太田隆啓



発行 100 年を迎えた 1922 年シリーズ切手を使って日本に送られてきた郵便物が沢山残されていました。その多くが葉書と封書です。

この 1922 年シリーズ切手は、1922 年から次の大統領シリーズが発行された 1938 年までの約 16 年間続きました。

この 16 年間の日本宛ての郵便料金は、
はがき料金 2c (1923 年から 1925 年まで)
3c (1925 年から 1938 年まで)
封書料金 5c (1922 年から 1938 年まで)
印刷物(2oz) 1c (1923 年から 1932 年まで)
1½c (1932 年から 1938 年まで)
でした。

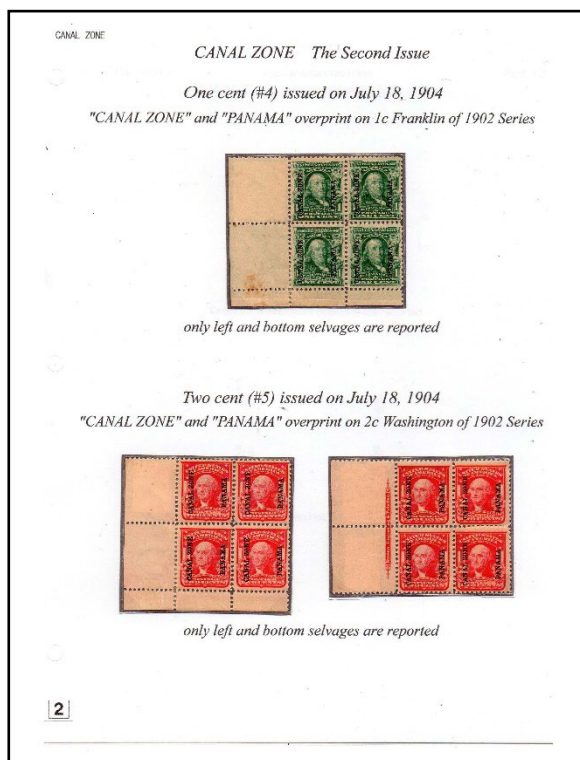
これらを郵便物毎に紹介しました。

america' 21 出品作品

◎ 第21 フレーム

パナマ運河地帯第二次発行

1902年シリーズへの加刷 太田隆啓



発行120年を迎えた1902年シリーズ切手に「CANAL ZONE / PANAMA」と加刷されたパナマ運河地帯の第二次発行を出品しました。

1904年6月24日、パナマ運河地帯(CANAL ZONE)の郵便局が開局しましたが、アメリカ本土からの切手の到着が間に合わず、急遽、パナマ切手に加刷した暫定切手(第一次発行)で対応していました。

当時の1902年シリーズ普通切手に「CANAL ZONE / PANAMA」と加刷した1c、2c、5c、8c、10cの5種の切手がやっと到着し、1904年7月18日に発売されました。これが第二次発行の普通切手です。

折角、準備された切手でしたが、パナマ共和国の経済救済のために、パナマ切手を買上げ、これに加刷した切手を使用することになり、アメリカ切手加刷のこの第二次発行分は、12月で使用禁止、廃棄処分されてしまい、わずか5ヶ月間の短命の切手で、発行枚数も少ないものでした。

第22~23フレーム

パナマ運河地帯

1922年シリーズへの加刷 太田隆啓



発行100年を迎えた1922年シリーズ切手に「CANAL / ZONE」と加刷されたパナマ運河地帯の普通切手。

1904年から20年間続いたパナマ切手に加刷した切手の使用を止め、1924年から台切手にアメリカ切手を使用し始めました。

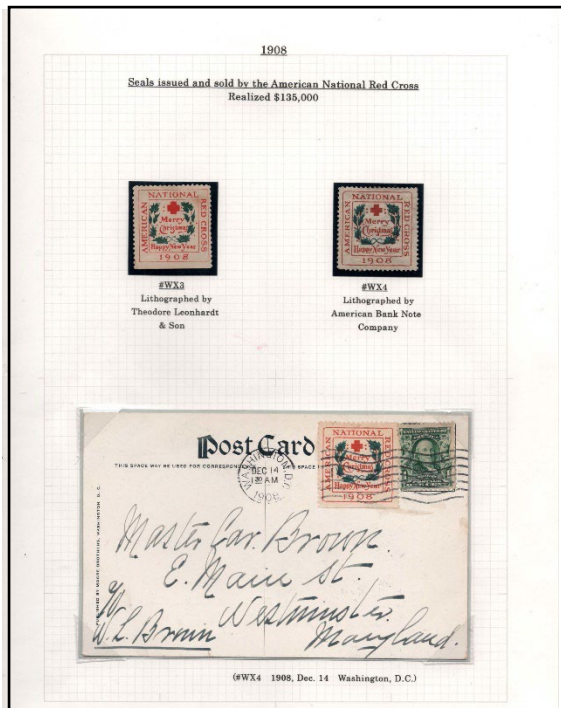
当時の普通切手1922年シリーズに「CANAL / ZONE」と加刷して使用したものです。約10年間も続いたので、加刷文字の変化が多く見られます。

この展示では、額面毎にリーフを構成し、その加刷文字のフォントや行間隔の変化もできるだけ示しました。

また、この切手に、さらに「POSTAGE / DUE」と加刷して使用した不足料切手3種も加えました。

◎ 第25 フレーム
アメリカのクリスマスシール

賀川彦治



アメリカ最初のクリスマスシールは、1907年一赤十字社員の個人的な募金活動で発行されたのが始まりです。

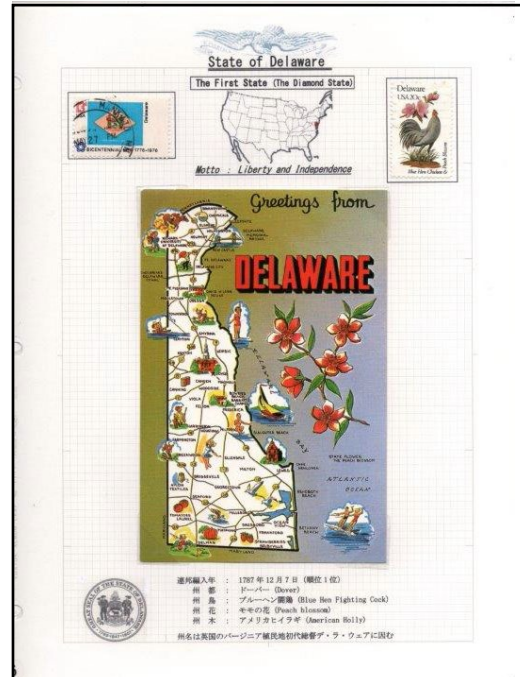
発行の目的は療養所への募金活動でしたが、目標額をはるかに上回る募金が寄せられたこともあって社員所属の「赤十字社デラウェア支部」が急遽追加発行しています。

爾来、今日に至るまで休むことなく毎年発行されていますが、当初は発行、販売ともに「赤十字社」としての募金活動でした。1911年に「結核予防協会」が販売を受け持つようになり、更に1920年には発行、販売の全てが「結核予防協会」に移譲されました。このため、デザインの根幹であったシンボルマークの「赤十字」が1920年発行のクリスマスシールから「結核予防協会」のシンボルマークである「複十字」に変わりました。

展示はこの「赤十字社」発行時代のクリスマスシールに限定、クリスマスカードの表面に切手と合わせて貼付した使用例を中心に構成しています。1920年が「複十字シール」元年ですが前年の1919年のシールは「赤十字+複十字」の両方がデザインされています。

第26~28 フレーム
絵地図 アメリカ合衆国

賀川彦治



アメリカ大陸東海岸の英領植民地13邦は1776年独立宣言の後、1812年戦争を経て英本国から完全な独立を果たし名実ともに「アメリカ合衆国」となります。

13州で始まった国づくりは、その後フランスやスペインなど欧州の植民地を買収、中でも「ルイジアナ購入」はよく知られるところで切手にもなっています。ロシアからアラスカを購入したことも時を経て評価されているところです。さらに領土としては隣国メキシコからの割譲、テキサスの併合などで国土の拡張を進め、1959年ハワイ併合で50州となり今日に至ります。

近年では属領のプエルトリコや、コロンビア特別区（ワシントン、D.C.）を州にこの話題を時折り目にするもありますが、近い将来50州を超える時が来るかも知れません。

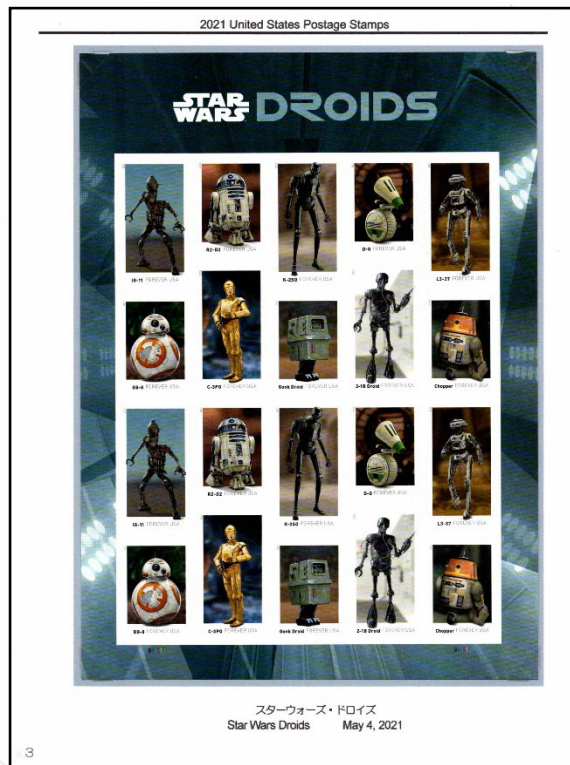
展示はこのアメリカ合衆国50州を絵葉書に描かれた絵地図で紹介するものです。

我が国ではあまり見かけませんが、国や地方の名所や産業を紹介している絵葉書は海外ではよく見かけます。展示の絵葉書は時代的に現況にそぐわないものもありますがそのことも含めて御笑覧の程。

america' 22 出品作品

◎ 第 29 フレーム
最近のアメリカ切手

豊田謙



2020年2021年発行のアメリカ切手です。コロナ禍で未収集が多く申し訳ありません。取り敢えず入手出来た切手をご紹介します。アメリカの珍しい切手も合わせて紹介しますのでお楽しみください。

第 30 フレーム
発行初日セレモニープログラム

豊田謙



皆さん、アメリカ切手発行初日セレモニーをご存知でしょうか？

アメリカ郵政公社では郵便切手、はがきなどを新発行する時発行初日セレモニーを開催します。そのセレモニーで配布されるのプログラムを紹介します。

その他の出品作品

第 7 フレーム	1890 年シリーズから 1908 年シリーズ	小林伸佳
第 8 フレーム	1922 年シリーズ	奥山昭彦
第 9 フレーム	大統領シリーズ、リバティ・シリーズ	小林伸佳
第 11~13 フレーム	アメリカーナ・シリーズ以降の普通切手	小林伸佳
第 24 フレーム	局型プリキャンセル	魚木五夫

上記の作品はページ数の関係で解説を掲載できませんでした。気になる作品がありましたら、会場におります研究会メンバーまでお気軽にご質問ください。